

まず、天安門事件で一体どれだけの死者が出たのか。六月四日から五日までの二日間で、三千七百人の死者と見るのが正確だろう。負傷者は約九千五百人。

この推定の根拠の一つが、中国紅十字会が混乱の直後に、二千四百人ぐらいが死んだと言っていたこと。また、北京放送で、四千人が死亡したと伝えたアナウンサーがそれを最後に姿を消している。香港では六・四大屠殺(とき)という言葉とともに六千人、北京大学の壁新聞が四千人、台灣当局が三千八百人など、それぞれ伝えている。これらを総合すると、三千数百人が

迷している。一つの理由は経済成長を上回る人口の増大だ。一年に千五百万から千六百万人が増えている。公式発表は十一億人だが、十二億か十三億人が実態だ。

中期の物価上昇率は二八%といふ。これは公式発表で、ウ



中嶋嶺雄東京外大教授

## 中嶋嶺雄氏講演要旨

### 懇佐賀政経

犠牲になつたのは間違いない。四月十五日の胡耀邦(元総書記)の死が事件の契機だが、これはきっとかけであつてもすこべての原因じゃない。どこに火を付けても、すぐに燃え上がる不満やいらだちが充満していた。

中国は開放と改革を進めてきた。変わったのは事実だが、良くはなっていない。一人当たりGNPは三百ドル前後を低く抑えている。一般民衆の不満を象徴していた。

鄧小平の長男鄧樸方は身障者福利基金の副理事長などの肩書を利用して私財を蓄え、娘や娘婿も国家の主要なポストに座っている。と壁新聞が指摘していた。その他の幹部も同様で、学生に理解を示した趙紫陽も例外ではなかつた。こうした中で胡耀邦が亡くなつた。中国の現状を憂い演説をしていた時に倒れ、しばらくして死亡した。葬儀は形の上では盛大だったが、幹部で、国民生活は大変厳しいものになつてている。

この一方で、共産党幹部の少しねんぐろにやつておれらをつかれた鄧小平は、これらを「人治でなく、法治を」だつた。『官倒』という言葉は官僚による不正を示したが、これは大きなスローガンの一つが「人治でなく、法治を」だつた。『官倒』という言葉は官僚による不正を示した

半期の物価上昇率は二八%といふ。これは公式発表で、ウラがある。中国の価格は公定と、自由の二重構造になつており、需要のある自由価格の

迷してはいる。一つの理由は経済成長を上回る人口の増大だ。一年に千五百万から千六百万人が増えている。公式発表は十一億人だが、十二億か十三億人が実態だ。インフレもある。第一・四

月四日、北京でアジア開発銀行の年次総会が開かれ、この席で趙紫陽は「学生たちは将来を背負う者たちで、彼らの行動は動乱ではない」と評価し、後で追及されることになる。ゴルバチョフ書記長が訪問し、鄧小平との会談で

鄧小平は百二十万人の規模に膨れ上がり、六月四日の事件へと進むが、当時の事情を伝える資料などを読むと、一時は二重政権的な大変な状況だったようだ。しかし、天安門に残つていたのは、わずか三千人程度だったのに対し、十万人の兵力が突っ込み、周辺には三十五万の正規軍が展開していた。いかに深刻な事態だったかが分かる。

さて、中国は今後どうなるかと言えば、今の体制は五年ももたないのではないか。鄧小平が生きている間はなんとなくもたせようとするだろうが、國家財政は、毎年ばく大額の赤字を出している。税収も外貨の獲得も当分は期待できない。

鄧小平にゆだねられていくには、共産党の体制は崩れていかう。十五年後には共産党五億にもなるうという人口を支えていくには、共産党の本質は古過ぎる。中華思想、事

衆の不満を象徴していた。

彼の死を悼んだ行動から大きな運動になつていった。政治局会議は自由化を求めるデモを動乱と規定した。

五月四日、北京でアジア開発銀行の年次総会が開かれ、この席で趙紫陽は「学生たちは将来を背負う者たちで、彼らの行動は動乱ではない」と評価し、後で追及されることになる。ゴルバチョフ書記長が訪問し、鄧小平との会談で

鄧小平は百二十万人の規模に膨れ上がり、六月四日の事件へと進むが、当時の事情を伝える資料などを読むと、一時は二重政権的な大変な状況だったようだ。しかし、天安門に残つていたのは、わずか三千人程度だったのに対し、十万人の兵力が突っ込み、周辺には三十五万の正規軍が展開していた。いかに深刻な事態だったかが分かる。

さて、中国は今後どうなるかと言えば、今の体制は五年ももたないのではないか。鄧小平が生きている間はなんとなくもたせようとするだろうが、國家財政は、毎年ばく大額の赤字を出している。税収も外貨の獲得も当分は期待できない。

鄧小平にゆだねられていくには、共産党の体制は崩れていかう。十五年後には共産党五億にもなるうという人口を支えていくには、共産党の本質は古過ぎる。中華思想、事

大主義を直さないと中国は生きていけない、という声が出てきたことは注目すべきだ。中国の当局者には、宇野首相は、金日成主席に次いで評

判がいいということだが、多くの中国人から指弾される」とも頭に置き、日本も言べきことはきちんとと言わなければならぬ。

## 講演を聞いて

日中貿易縮小  
佐賀にも痛手

しつかりした  
世界観が必要

香月 義人氏(73)

七田 利秀氏(49)



中国問題に非常に詳しいとは聞いていた



詳しい情報を基にした講演で、非常に興味

が、驚くほどのもので大変興味深かつた。想像していた通り、やはり中国の将来は難しいという印象だ。インフレはさらに高進するだろうし、経済が行き詰まる。内在する政治的な問題も簡単には変化しないだろう。日中貿易は大事だが縮小する。佐賀にも痛手いくべきだ。

(佐賀銀行会長)

(天山酒造社長)